

第5回 広域ごみ・汚泥処理施設整備検討委員会まとめ（要点筆記）

《開催日》 平成22年5月14日（金） 午後1時30分から
《場 所》 豊岡市役所 3階 第4会議室
《出席者》 委 員：寺嶋均、市川陽一、本庄四郎、松永正博、
筑本壽晴、宇都出敏文、山村紀久子、
尾崎美津人、杉本章、中田隆子、橘清治 （敬称略）
組 合：組合職員 4名
合計15名

《内 容》 委員会次第

- 1．開会
- 2．報告事項
生活環境影響調査書の縦覧について
- 3．協議事項
施設周辺整備計画方針について
 - ・基本理念・方針について
 - ・整備方針を計画区域内に展開させる方針図（ゾーニング）
- 4．その他
次回の開催日について
- 5．閉会

【質問・意見等】

(生活環境影響調査書の確認について)

- ・委員による調査書の確認は、生活環境影響調査の指針に基づいて行っていた
　　だく。

(基本理念・方針について)

- ・施設が来ることによって、改めて自然や環境を考えていこうということである
　　ので、施設という言葉を入れてはどうか。
- ・施設と環境を併せた環境を創造していくというようなスタンスを考えていかな
　　ければならない。
- ・環境の中には、施設も含めて周辺整備や自然環境もあるので、新しい環境と
　　することもできる。
- ・新しい環境の創造を最後に持っていき、前段の言葉を考えてはどうか。
- ・3つの柱のキーワードをそれぞれ入れてはどうか。
- ・理念は、「環境学習と地域交流ができる新しい環境の創造」とする。
- ・基本理念にサブタイトルを付けることによって、もっと情報発信ができるの
　　ではないか。サブタイトルについては、事務局で考えてもらえば良い。
- ・基本方針には、3つの柱の言葉を取り入れてはどうか。
- ・循環型社会というのは、人工的なものである。
- ・資源循環と環境保全、体験と交流の場を入れてはどうか。
- ・方針が出ているから3本の柱があるので、方針は3つの柱が繋がった形にし
　　ないといけない。
- ・3段目のタイトルを包括したものを方針にしないといけない。
- ・循環型社会の形成を目指すにはどうか。
- ・自然との共存・共生や集いの場についても考えなければいけない。
- ・循環型社会には、資源の循環と環境保全という捉え方もできる。
- ・基本方針は、「自然との共存・共生や、資源循環と環境保全について考える体
　　験と交流の場とする」にする。

(整備方針を計画区域内に展開させる方針図(ゾーニング)について)

- ・土地の利用目的によって、ゾーニングの区域等は変わってくる。
- ・何かを造るとなると、管理体制やリピーターがあるのか等を考えていく必要
　　がある。
- ・周囲に同じようなものがあるものを整備するのではなく、ごみ処理施設に関
　　連するものに限り整備するなどしないと、管理が大変である。
- ・自分達で環境を守っていくことが大事であり、地域の要望も盛り込んでいく
　　必要もあるので、今後、考えて調整していくこととする。